

02-02-03 ハイハイをしない子

子どもの発達には、寝返り→お座り→ハイハイ→ひとり歩きのように一応の順序がありました。この発達過程に勝手な理由をつけてみると、赤ちゃんの首も座り、寝ている脇に気になるものがあったと考えて下さい。一所懸命手を伸ばしたらコロッとうつ伏せになってしまった。これが寝返りです(=学習/目で覚え、カラダで覚える)。寝返りを覚え、前を見たら何かがあるので、“触って確認したい”と頑張るのにじり寄った結果がズリバイ(=学習)、一方、その頃には、座って遊ぶことも可能となります。さらに足を使った方が効果的とハイハイを覚え(=学習)、走る年上の子を追いかけるために高バイへと進化します(=学習)。鏡台(=母の嫁入り道具で一家一台必ずあった)に映る自分が気になり、よじ登りつかまり立ちを覚える(=学習)。離れた物に手を伸ばしながら伝い歩きを(=学習)。周囲の子が歩くのを見て歩くことに挑戦(=補助が必要)。ひとり歩きを覚える(=学習)。これらの行動は、子どもの脳の発達や筋肉の発達に沿った行動であると同時に環境が脳を刺激し、その刺激に応じて子どもが挑戦した結果です。

しかし、最近の子どもを見るとズリバイ→ハイハイの過程を飛ばしてお座りをして遊び、時期が来ると急に歩けるようになる子がいます。これって“飛び級?”とったりもしますが、この子達が歩く時期は昔の子と同じか、やや遅れる程度です。狭い部屋で母親と二人きりの毎日では、自分から動かなくても母親が全部やってくれます。子育て環境の変化が発達過程に少なからず影響しているのかも知れません。

昔のように、同じくらいの年齢の子が多く、広い庭(農家には農耕用の機具や農作物の保管・加工のために庭が広く、女の子たちは、ムシロを敷いて“ママゴト遊び”等をしていた)や家の中で走り回る年上の子達と一緒に成長した環境とは違います。(一子どもの指導者は子ども一の稿も参照)

今の子育ては、お母さん1人に偏(かたよ)っています。ひとりで頑張らずに子どもの集まる所に出て、親子ともどもストレス解消をされたらどうですか？

お子さんは、何か“新しい技”を覚えてくるかもしれませんよ！

